

有害鳥獣対策

無会派
高橋利宗議員



問 有害鳥獣対策の現状と課題について問う。

答 各種有害鳥獣対策を実施していく。

有害鳥獣について、特にイノシシの生息数が増え、農作物の被害が多く、また、イノシシが人に危害を加えるなど心配な面もある。有害鳥獣被害への本市の取り組みについて問う。

問 有害鳥獣対策の現状と対策について問う。

答 平成28年度はイノシシの捕獲計画が371頭に対し、捕獲が370頭、ニホンザルの捕獲計画が14頭に対し、捕獲が27頭であり、平成29年度はイノシシの捕獲計画が378頭に対し、5月末までの捕獲が25頭、ニホンザルの捕獲計画が15頭に対し、5月末

までの捕獲が6頭となっている。今後は、捕獲活動におけるドローンの活用や、遊休農地、荒廃農地減少への啓発活動、電気柵及びワイヤーメッシュ柵設置への補助の検討などの有害鳥獣対策を実施していく。

問 鳥獣被害対策実施隊の現状と課題について問う。

答 平成29年度の市鳥獣被害対策実施隊員数は29名で、平均年齢は67・5歳となっており、若手の隊員の確保と人材育成が課題と捉えている。今後は、有害鳥獣によ



子育て支援策

問 むし歯対策の現状と分析状況を問う。

答 本市の未就学児のむし歯有病率は県平均値を上回っている。保護者の意識の低さが原因と考えている。

歯と口の健康は心身の健康と深い関わりがあり、よく噛んで食べることは健康な体をつくる為の出発点と言える。本市も小

学部の児童を対象にむし歯予防としてフッ化物洗口を開始し、このことは大いに評価をする。しかしながら、取り組みのきつかけは本市の子ども

問 むし歯対策の現状と分析状況を問う。

答 平成27年度における1歳6カ月児健診での本市の平均むし歯有病率は、

健診を実施した県内53市町村のうち、むし歯有病率の高いほうから9番目、1人平均むし歯数は、むし歯数の多いほうから13番目で、県平均よりそれぞれ1・81%、0・02本上回っており、3歳児健診での平均むし歯有病率は、むし歯有病率の高いほうから18番目、1人平均むし歯数は、むし歯数の多いほうから19番目で、県平均よりそれぞれ4・76%、0・28本上回っている。

市は、乳幼児のころから仕上げ磨きが不十分であること、間食、特に甘味飲食類を摂取させることなど、保護者のむし歯

予防に対する意識の低さが、むし歯有病率が高く、むし歯数が多い原因と考えている。

問 むし歯対策の今後の方針について問う。

答 歯科衛生士による乳幼児一人一人に合った効果的な指導を行うとともに、保護者に対しむし歯予防の重要性やむし歯による健康への影響を周知徹底し、保護者や幼児が進んでむし歯を予防するよう働きかけていきたい。

